

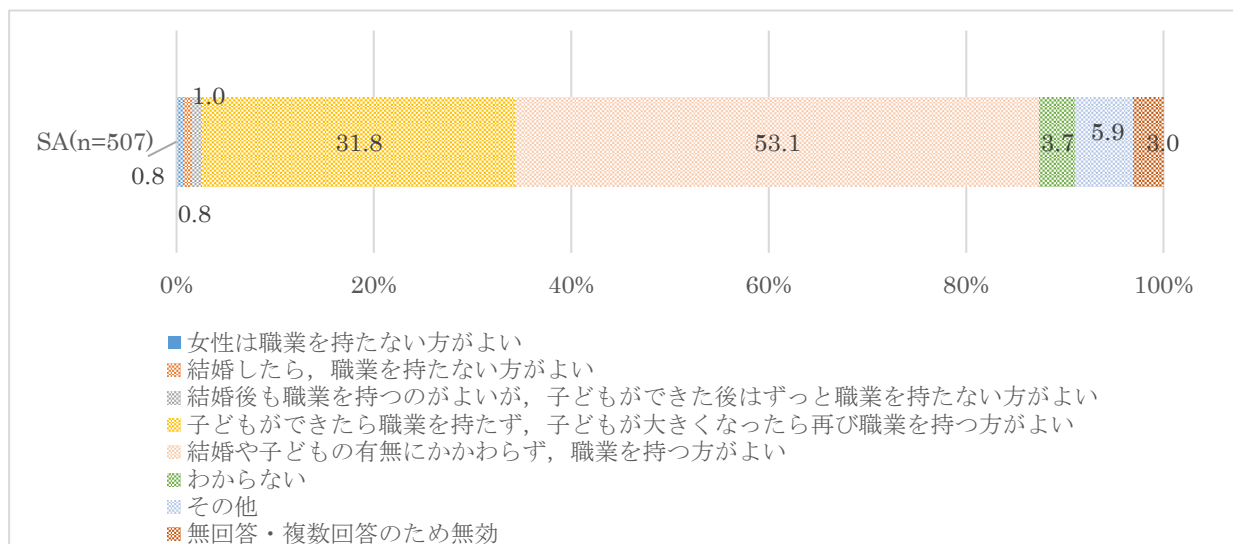
男女別では、男性は「家事などの分担について、夫婦や家族間で話し合い、協力すること」(49.5%)が最も高く、次いで「労働時間短縮や休暇制度(育児休業、介護休暇、ボランティア休暇など)を普及させること」(45.3%)、「男女の役割意識についての社会通念、慣習、しきたりを改めること」(38.9%)であった。女性は、「家事などの分担について、夫婦や家族間で話し合い、協力すること」が62.4%で最も高く、次いで「労働時間短縮や休暇制度(育児休業、介護休暇、ボランティア休暇など)を普及させること」(49.4%)、「男女の役割意識についての社会通念、慣習、しきたりを改めること」(44.3%)、「(男性が家事などに参加することに対する)男性自身の抵抗感をなくすこと」(39.5%)、「職場や仕事中心の生き方、考え方を改めること」(30.6%)であった。

年齢別では、「労働時間短縮や休暇制度(育児休業、介護休暇、ボランティア休暇など)を普及させること」は、20代後半(91.9%)、30代後半(58.7%)、40代後半(55.8%)、50代前半(55.3%)で最も高く、「家事などの分担について、夫婦や家族間で話し合い、協力すること」については、どの年代も5割弱を超えた。

5 女性の就業、参画に関する意識について

(1) 女性の就業について

問11 女性が職業を持つことについて、あなたはどのように考えますか。
あてはまるもの1つに○をつけてください。



【その他の回答】

- 個人の生き方。
- 結婚や子どもの有無にかかわらず職業を持つしかない。子育て世代が充実した生活が送れていますか？その現状が見えていないのでは？
- 人それぞれの意見があるので、一人ひとりが家族と家事について好きなようにしたらいいと思う(家族と相談しながら・・・)。
- 自由にしたらいい。

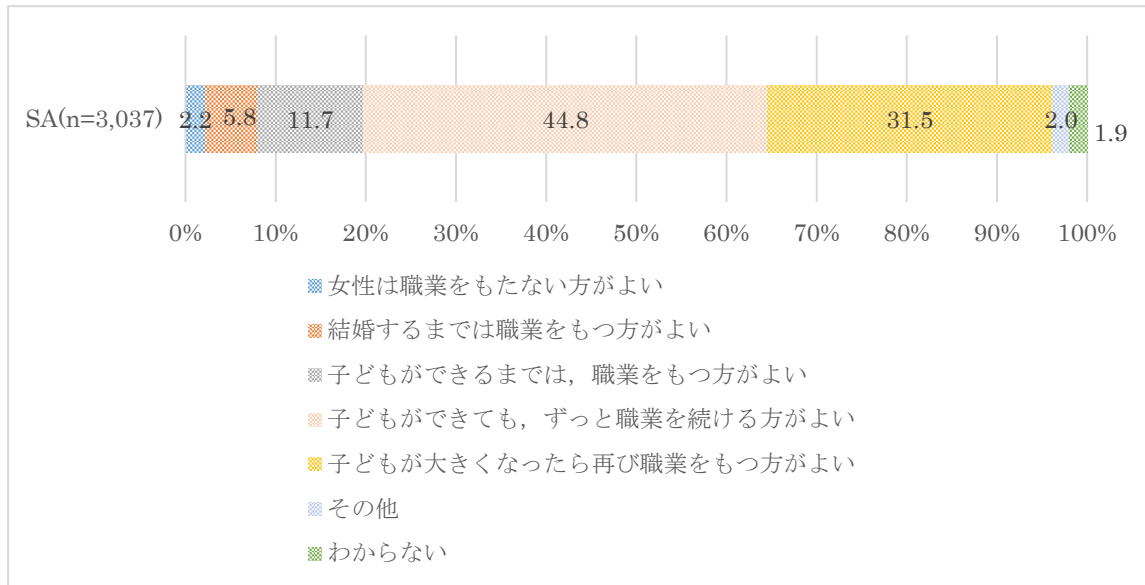
- 本人の置かれている環境や立場によって決めればいいと思う。
- 人それぞれの考えでよいと思う。
- 職業を持つも家庭にはいるも女性の意見を尊重したい。
- その家庭の考え方でいい。
- 個人の自由だと思う。
- 各家庭の経済状況で異なる。
- その人しだい。
- 本人の自由。
- 家族の状況にもよるが働きたければ働けばいい。育児に専念したければ育児！
- どちらでも良いと思う。
- 働きたければ働けば良い。子どもが出来て働くのが厳しい状況でも配偶者の収入等によっては働かざるをえない。
- 人それぞれ。能力のある女性は職業を持ったほうがいい。
- 自由だと思います。
- 職業を続けて問題なし。
- 結婚前後も女性自身で決めるべき。
- 個人の自由であり、女性が職を持つべきか否かという議論そのものが女性差別ではないか？
- ケースバイケース。その人の自由でその家庭の都合もあると思います。
- 夫婦間で決めることだと思う。
- 決めつける事ではない、選択出来る環境を作る事が大切ではないでしょうか。
- 職業を持ちたいと思う女性は結婚、子どもの有無に関係なく持てば良い。
- 本人次第、子どもと結婚は関係ない。
- 持つ・持たないは自由
- 人それぞれ。
- 子どもが小さい間（小学生くらいまで）は、子どもを優先にできるような環境で働けるなら、子どもの有無にかかわらず職業を持つほうがよいと思う。
- その他

◆ 女性が職業を持つことについて、「結婚や子どもの有無にかかわらず、職業を持つ方がよい」が概ね5割で最も高く、次いで「子どもができたなら職業を持たず、子どもが大きくなったら再び職業を持つ方がよい」が概ね3割であった。

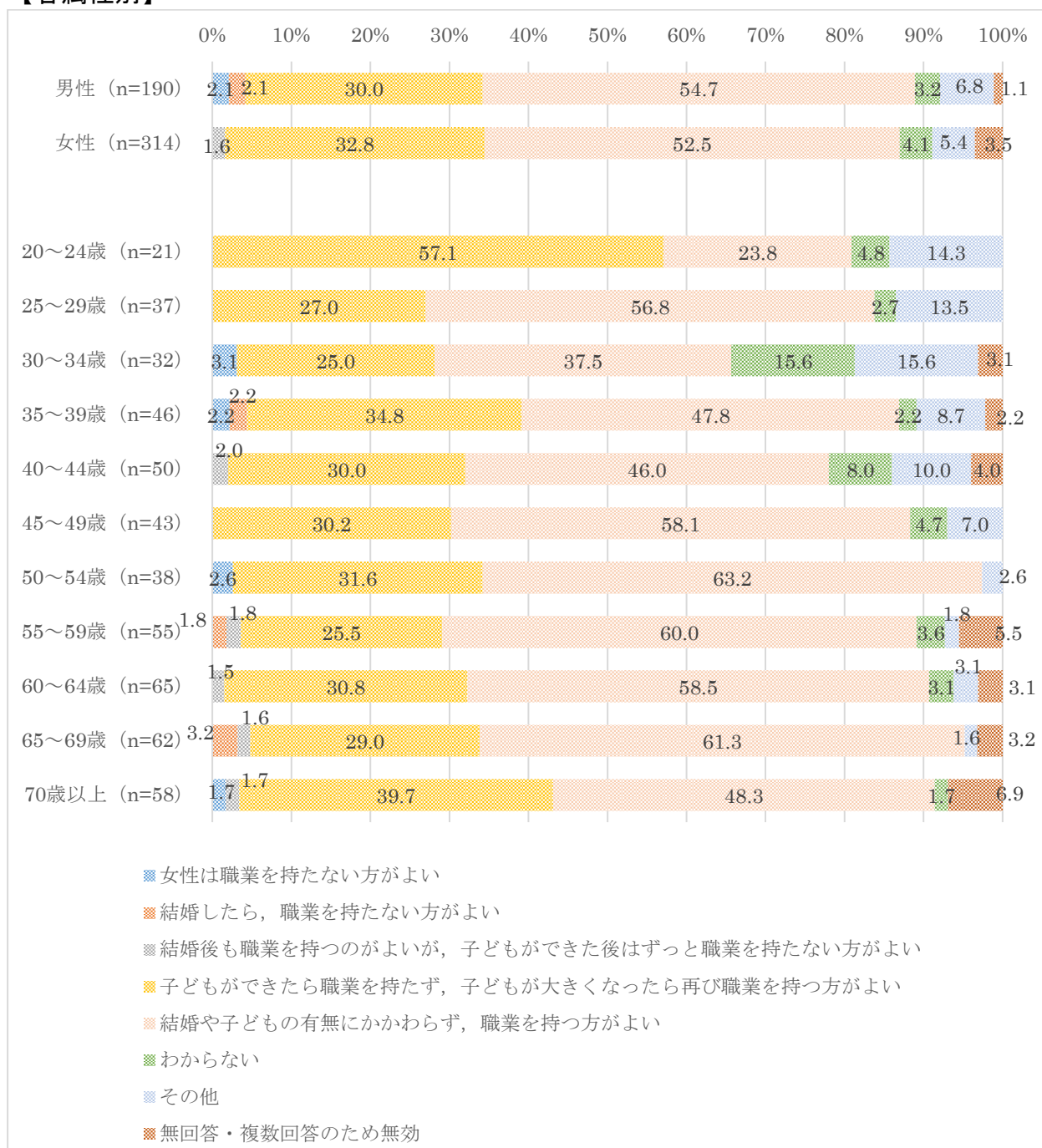
女性が職業を持つことについて、「結婚や子どもの有無にかかわらず、職業を持つ方がよい」が53.1%で最も高く、次いで「子どもができたなら職業を持たず、子どもが大きくなったら再び職業を持つ方がよい」が31.8%であった。

※参考

《平成 26 年 8 月女性の活躍推進に関する世論調査》



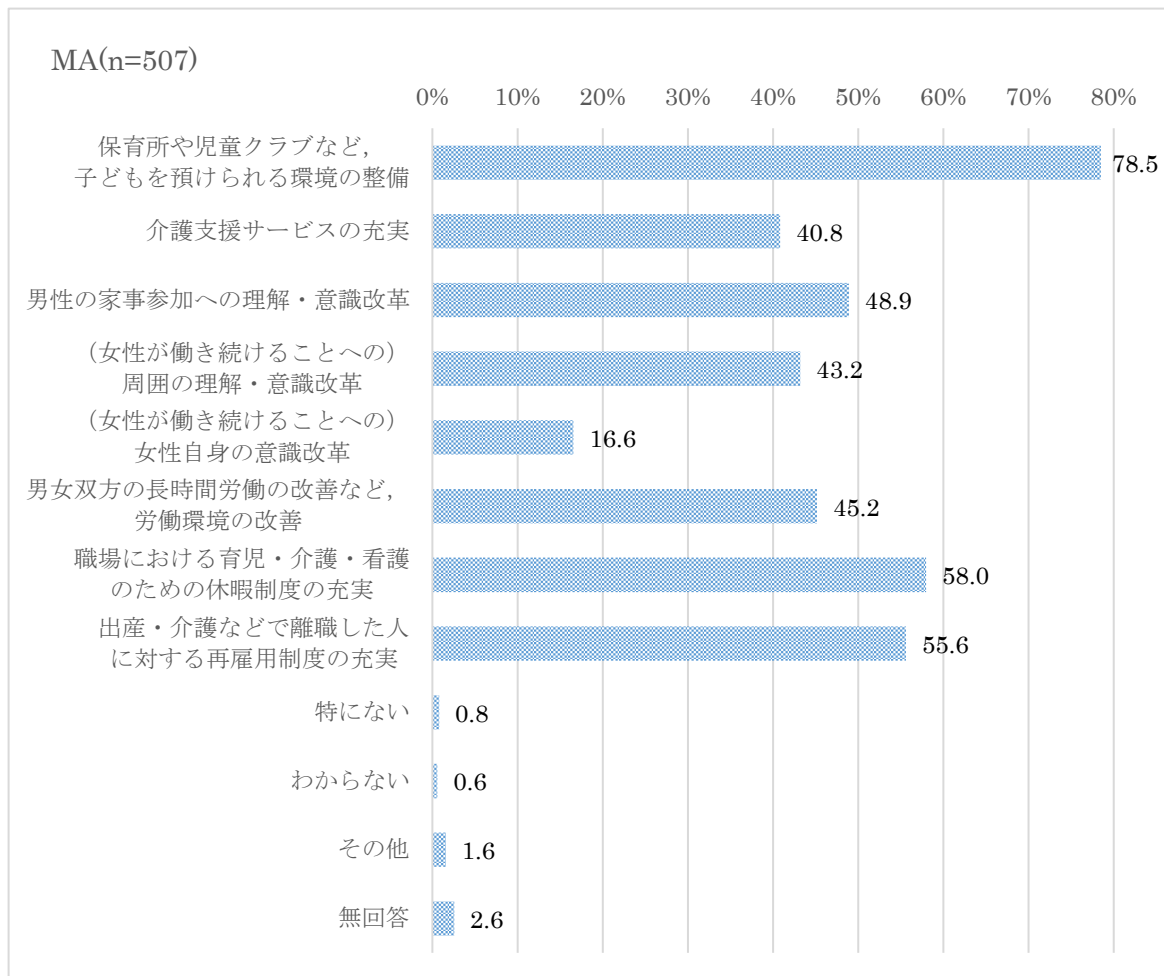
【各属性別】



男女別にみると、男女とも、「結婚や子どもの有無にかかわらず、職業を持つ方がよい」が概ね5割（男性：54.7%、女性52.5%）で最も高く、次いで「子どもが出来たら職業を持たず、子どもが大きくなったら再び職業を持つ方がよい」が概ね3割（男性：30.0%、女性32.8%）であった。

年齢別にみると、どの年代も「結婚や子どもの有無にかかわらず、職業を持つ方がよい」が最も高く、次いで「子どもが出来たら職業を持たず、子どもが大きくなったら再び職業を持つ方がよい」であった。また、世代が上がるにつれ「結婚や子どもの有無にかかわらず、職業を持つ方がよい」が増加する傾向が見られた。その他の回答で「個人の自由である」については、20代～40代からあげられた。

問12 女性が働きつづけるためには、家庭・社会・職場において、どのようなことが必要だと思いますか。あてはまるものすべてに○をつけてください。



【その他の回答】

- ニーズに合った仕事の提供。
- 介護サービスや保育の費用を下げる。
- 女性は子どもをしっかりと育てるべきです。私の祖父が言っていました。「犬、ネコでも子どもは自分で育てる。保育園などにいれ、長い時間他人に育てさせるのは人間だけだと。今は子どもたちが平気で犯罪を犯します。もっとゆとりある子育てができるように、母親が働かなくても、ゆっくり子育てできる社会がいいです。家には5人の子どもがいますが、大学生が2人いて、下の小さい子たちをゆっくり育てられず、毎日働き、生活に何の余裕もありません。小さい子どもには手当てがあっても、お金がかかる。大学生には何の手当てもないので、うちの子どもたちは、「子どもは一人しかつくりたくない」といっています。なので、少子化はますますひどくなると思います。女性が社会に出ていくと子どもはだんだん少なくなると思います。
- 以前勤務していた職場が県の公的機関でしたが、女性が多くても、男性職員の「女のくせに」みたいな発言をきいていると女性蔑視を感じ、女性への理解は進んでないと感じました。平等と表面上は言っていましたでしたが女性の社会進出はむずかしいと感じます。

- 求人を増やして欲しい。
- 病児保育施設の整備及び費用補助。
- 病児保育の充実。特に小学生になってからは、鹿嶋市には預け先がない。
- その他

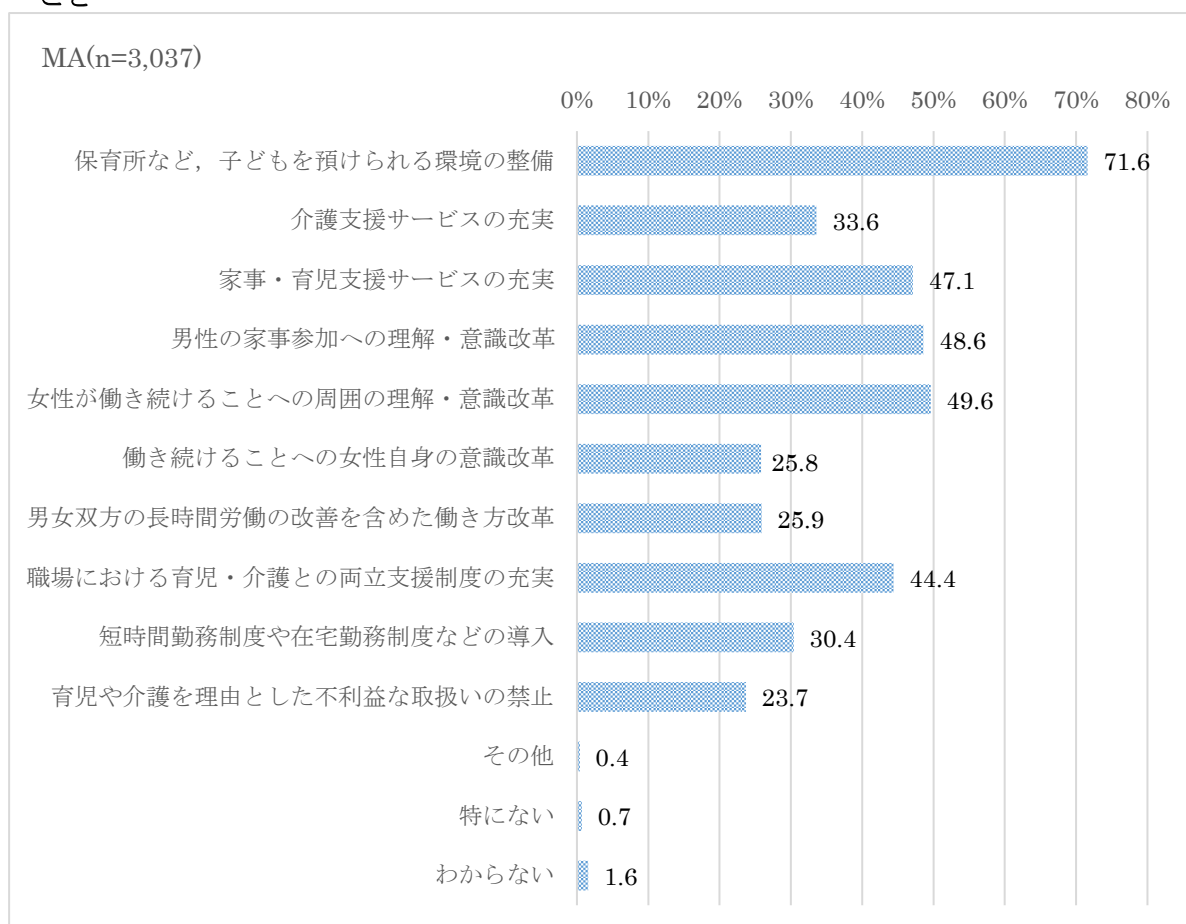
◆ **女性が働き続けるために必要なこととして、「保育所や児童クラブなど、子どもを預けられる環境の整備」が8割弱で最も高かった。次いで「職場における育児・介護・看護のための休暇制度の充実」,「出産・介護などで離職した人に対する再雇用制度の充実」で5割を超えた。**

女性が働き続けるために必要なこととして、「保育所や児童クラブなど、子どもを預けられる環境の整備」が最も高く78.5%,次いで「職場における育児・介護・看護のための休暇制度の充実」(58.0%),「出産・介護などで離職した人に対する再雇用制度の充実」(55.6%)であった。「男女双方の長時間労働の改善など、労働環境の改善」については、国と比較すると比較的高い傾向がみられた。

※参考

《平成26年8月女性の活躍推進に関する世論調査》

※ 女性が出産後も離職せずに同じ職場で働き続けるために、家庭・社会・職場において必要なこと



【各属性別】

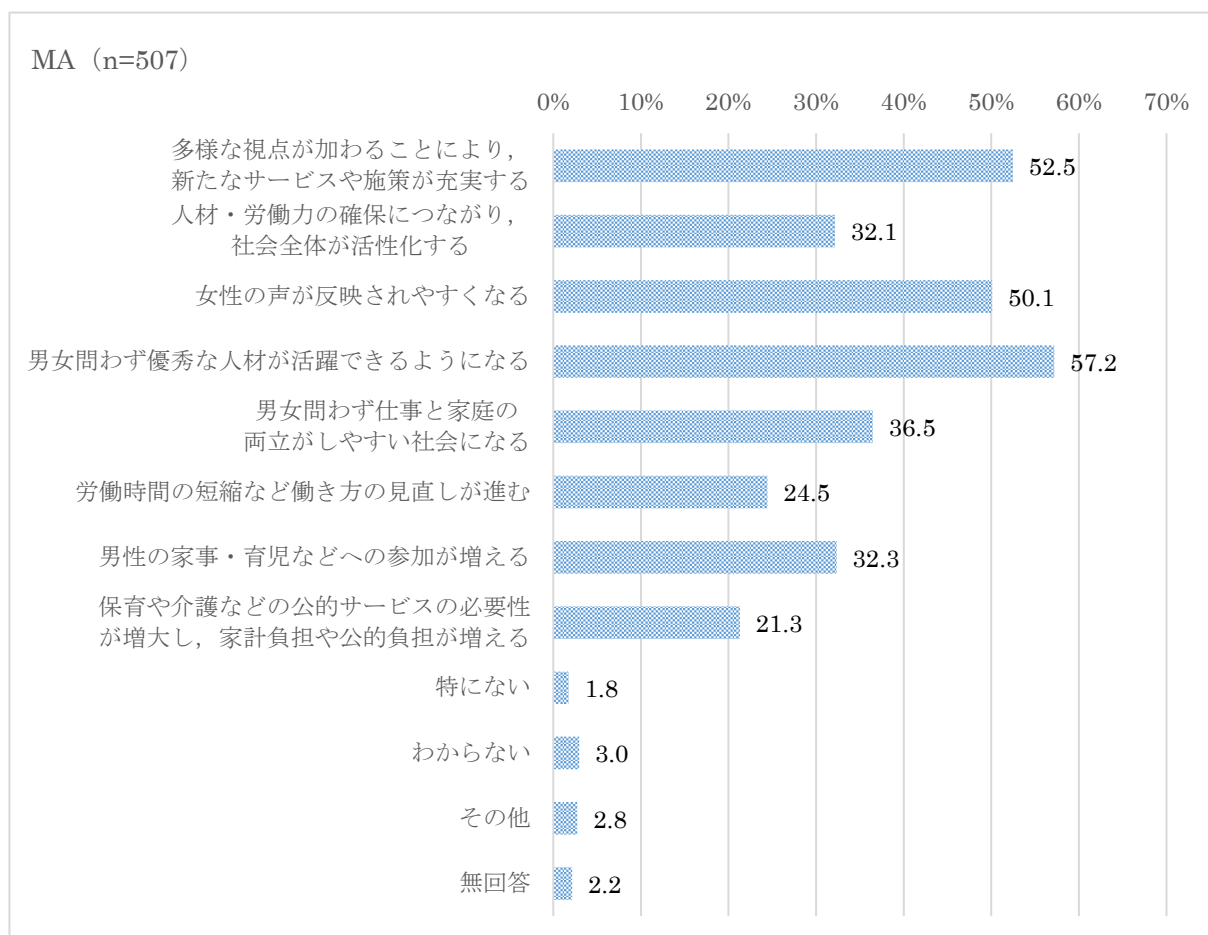
		子どもを預けられる環境の整備	介護支援サービスの充実	男性の家事参加への理解・意識改革	（女性）周囲の理解・意識改革	（女性）働き続けることへの意識改革	男女双方の長時間労働の改善など・労働環境の改善	職場における育児・介護・看護のための休暇制度の充実	出産・介護などで離職した人に対する再雇用制度の充実	特になし	わからない	その他	無回答
性別	男(n=190)	77.4%	38.9%	40.0%	35.3%	17.9%	42.1%	56.3%	55.8%	0.5%	1.1%	1.1%	2.1%
	女(n=314)	79.9%	42.4%	54.8%	48.4%	15.9%	47.5%	59.6%	56.1%	1.0%	0.3%	1.9%	2.9%
年齢別	20～24歳(n=21)	71.4%	23.8%	38.1%	47.6%	19.0%	57.1%	57.1%	81.0%	0.0%	0.0%	4.8%	4.8%
	25～29歳(n=37)	94.6%	32.4%	62.2%	51.4%	2.7%	59.5%	78.4%	75.7%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	30～34歳(n=32)	71.9%	28.1%	43.8%	40.6%	15.6%	46.9%	50.0%	46.9%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	35～39歳(n=46)	82.6%	32.6%	58.7%	47.8%	8.7%	47.8%	71.7%	47.8%	0.0%	2.2%	0.0%	0.0%
	40～44歳(n=50)	86.0%	46.0%	56.0%	42.0%	22.0%	58.0%	60.0%	56.0%	0.0%	0.0%	10.0%	0.0%
	45～49歳(n=43)	83.7%	53.5%	48.8%	51.2%	27.9%	48.8%	67.4%	62.8%	0.0%	0.0%	2.3%	2.3%
	50～54歳(n=38)	68.4%	50.0%	36.8%	36.8%	18.4%	39.5%	42.1%	57.9%	0.0%	0.0%	0.0%	5.3%
	55～59歳(n=55)	69.1%	43.6%	43.6%	40.0%	14.5%	45.5%	45.5%	47.3%	1.8%	1.8%	0.0%	7.3%
	60～64歳(n=65)	73.8%	38.5%	46.2%	47.7%	18.5%	43.1%	53.8%	53.8%	3.1%	1.5%	0.0%	1.5%
	65～69歳(n=62)	80.6%	46.8%	48.4%	38.7%	19.4%	37.1%	71.0%	54.8%	0.0%	0.0%	1.6%	4.8%
70歳以上(n=58)	79.3%	39.7%	50.0%	36.2%	13.8%	29.3%	43.1%	48.3%	1.7%	0.0%	0.0%	1.7%	

男女別では、「男性の家事参加への理解・意識改革」が女性 54.8%で、男性 40.0%に比べ、14.8%高かった。

年齢別では、どの年代においても「保育所や児童クラブなど、子どもを預けられる環境の整備」が最も高く、おおむね7割以上であった。

(2) 女性の参画について

問13 政治・経済・地域などの各分野で、女性の参画が進み、女性のリーダーが増えると、どのようなことが起こると思いますか。あてはまるものすべてに○をつけてください。



【その他の回答】

- 育児に、子どもに、しっかり向き合っている。向き合ってきた人材ならば、男女は関係なく、人としてのリーダーが増えてほしい。又は、その人材を育成してほしいので、市役所側から始めてみては？
- 増長する女性が増える。
- 考え方が古い年配の方がストップをかける。
- 職場が明るくなる。
- 女性へのセクハラなどが減りそうだと思います。
- 厳しい環境の中でリーダーになっていくため、仕事と家庭の両立に対してどこまで理解してくれるかが心配。
- 女性の多数を参画させようと思うことで、能力の低い女性がリーダーになることも多い。
- 女性が男性としてのリーダーを目指すと変化はないと思う。

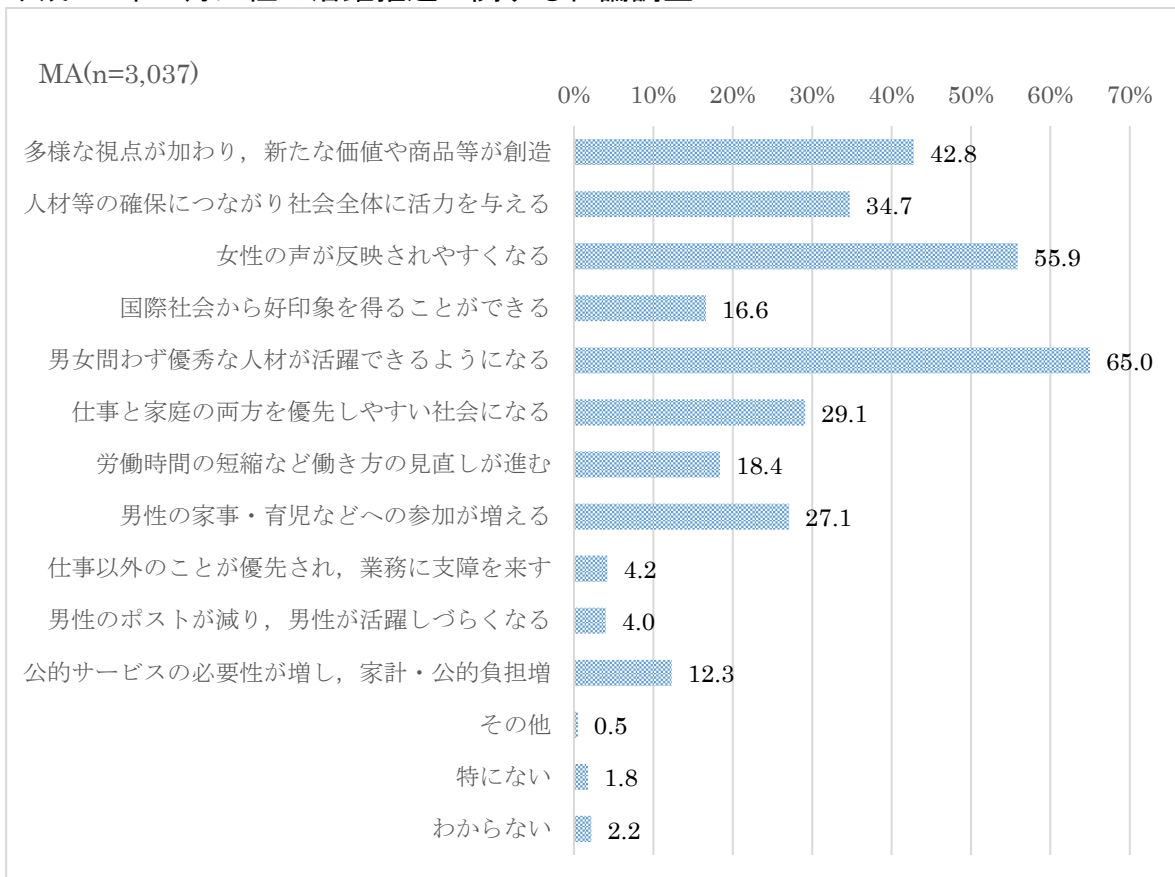
- 女性リーダーは男性に利用される可能性がある。自分を強く持たない人が多い。
- 少子化の改善につながる。
- 男でも女でも、バカな人がなれば同じでは？きちんと意識を持っている人がなる必要があると思います。
- 過剰な女性政策による男女の立場の逆転もしくは女尊男卑。
- 女性も現在の男性並みに働くことが要求されるようになり、結局変わらないと思う。
- あまり優秀でない人がリーダーとして増えてしまうのではないか

◆ **各分野での女性の参画が進み、女性リーダーが増えるとどのようなことが起こると思うかについては、「男女問わず優秀な人材が活躍できるようになる」が概ね6割で、「多様な視点が加わることにより、新たなサービスや施策が充実する」「女性の声が反映されやすくなる」が5割を超えた。**

各分野での女性の参画が進み、女性リーダーが増えるとどのようなことが起こると思うかについては、「男女問わず優秀な人材が活躍できるようになる」が57.2%で最も高く、次いで「多様な視点が加わることにより、新たなサービスや施策が充実する」(52.5%)、「女性の声が反映されやすくなる」(50.1%)であった。

※参考

《平成26年8月女性の活躍推進に関する世論調査》



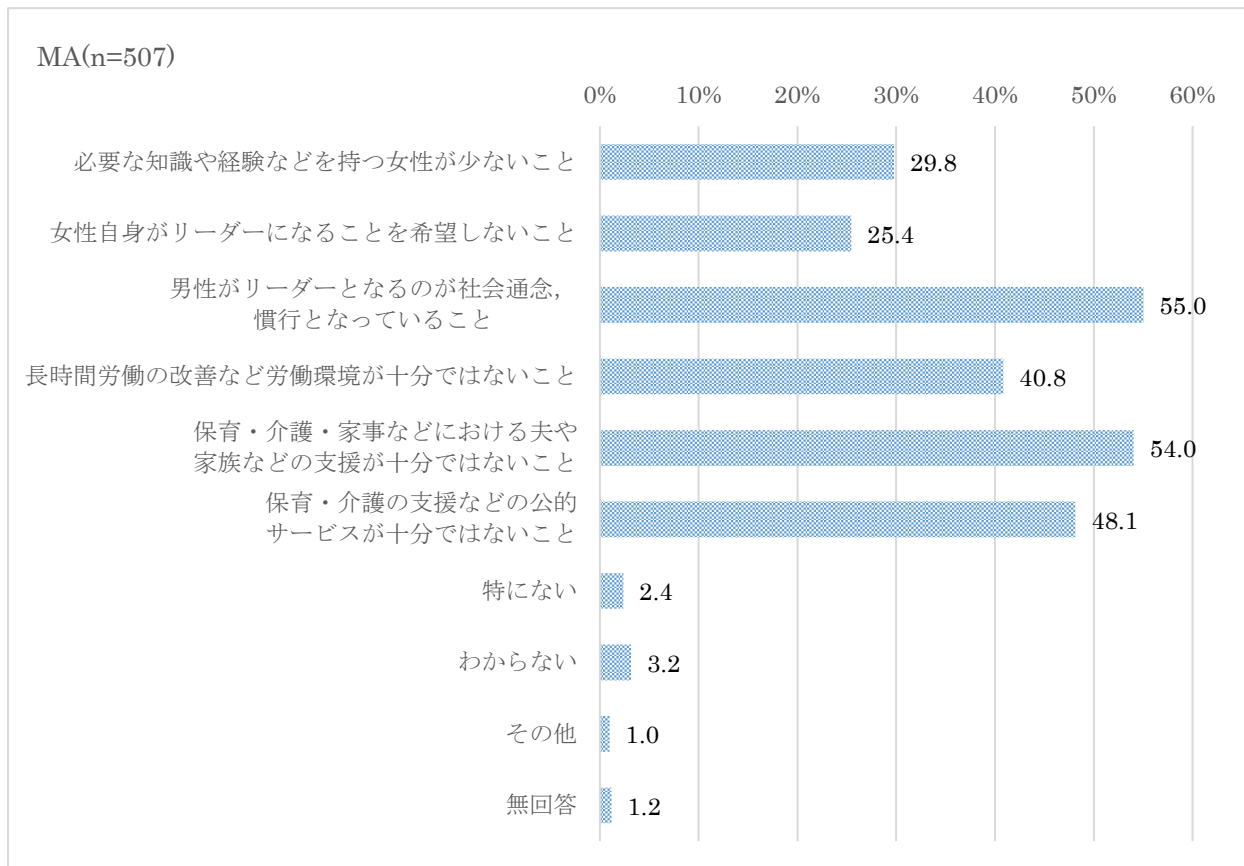
【各属性別】

		策より多様な視点が加わることで、新たなサービスや施策が充実する	人材・労働力の確保につながる	女性の声が反映されやすくなる	男女問わず優秀な人材が活躍できるようになる	男女問わず仕事と家庭の両立がしやすい社会になる	労働時間の短縮など働き方の見直しが進む	男性の家事・育児などへの参加が増える	保育や介護などの公的サービスや公的負担が増え、家計負担が増える	特になし	わからない	その他	無回答
性別	男(n=190)	50.5%	37.4%	46.3%	61.6%	34.7%	22.1%	30.5%	21.1%	2.1%	3.2%	4.7%	1.6%
	女(n=314)	54.1%	29.3%	52.9%	55.1%	37.9%	26.1%	33.8%	21.7%	1.6%	2.9%	1.6%	2.5%
年齢別	20～24歳(n=21)	66.7%	28.6%	57.1%	52.4%	52.4%	38.1%	33.3%	28.6%	0.0%	4.8%	4.8%	0.0%
	25～29歳(n=37)	54.1%	18.9%	59.5%	51.4%	54.1%	37.8%	48.6%	18.9%	0.0%	0.0%	5.4%	2.7%
	30～34歳(n=32)	62.5%	21.9%	68.8%	59.4%	62.5%	43.8%	56.3%	21.9%	0.0%	0.0%	6.3%	3.1%
	35～39歳(n=46)	45.7%	19.6%	45.7%	52.2%	41.3%	26.1%	19.6%	15.2%	2.2%	2.2%	2.2%	2.2%
	40～44歳(n=50)	60.0%	30.0%	66.0%	56.0%	30.0%	18.0%	20.0%	14.0%	0.0%	2.0%	6.0%	0.0%
	45～49歳(n=43)	62.8%	37.2%	51.2%	69.8%	44.2%	25.6%	39.5%	30.2%	4.7%	2.3%	0.0%	2.3%
	50～54歳(n=38)	55.3%	36.8%	31.6%	68.4%	15.8%	18.4%	18.4%	18.4%	2.6%	0.0%	5.3%	2.6%
	55～59歳(n=55)	45.5%	29.1%	45.5%	50.9%	25.5%	20.0%	23.6%	18.2%	1.8%	5.5%	1.8%	5.5%
	60～64歳(n=65)	50.8%	38.5%	50.8%	58.5%	32.3%	21.5%	41.5%	26.2%	3.1%	4.6%	1.5%	1.5%
	65～69歳(n=62)	58.1%	43.5%	56.5%	61.3%	38.7%	25.8%	41.9%	24.2%	1.6%	0.0%	0.0%	3.2%
70歳以上(n=58)	39.7%	36.2%	41.4%	55.2%	41.4%	25.9%	39.7%	25.9%	1.7%	3.4%	0.0%	1.7%	

男女別では、「女性の声が反映されやすくなる」が女性 52.9%で、男性 46.3%に比べ 6.6%高く、「男女問わず優秀な人材が活躍できるようになる」が男性 61.6%で、女性 55.1%に比べ 6.5%高かった。

年齢別では、「労働時間の短縮など働き方の見直しが進む」が 20代、30代で他の年代よりも高い傾向が見られた。

問14 政治・経済・地域などの各分野で女性のリーダーを増やすときに、世間一般で障害となるものは何だと思えますか。あてはまるものすべてに○をつけてください。



【その他の回答】

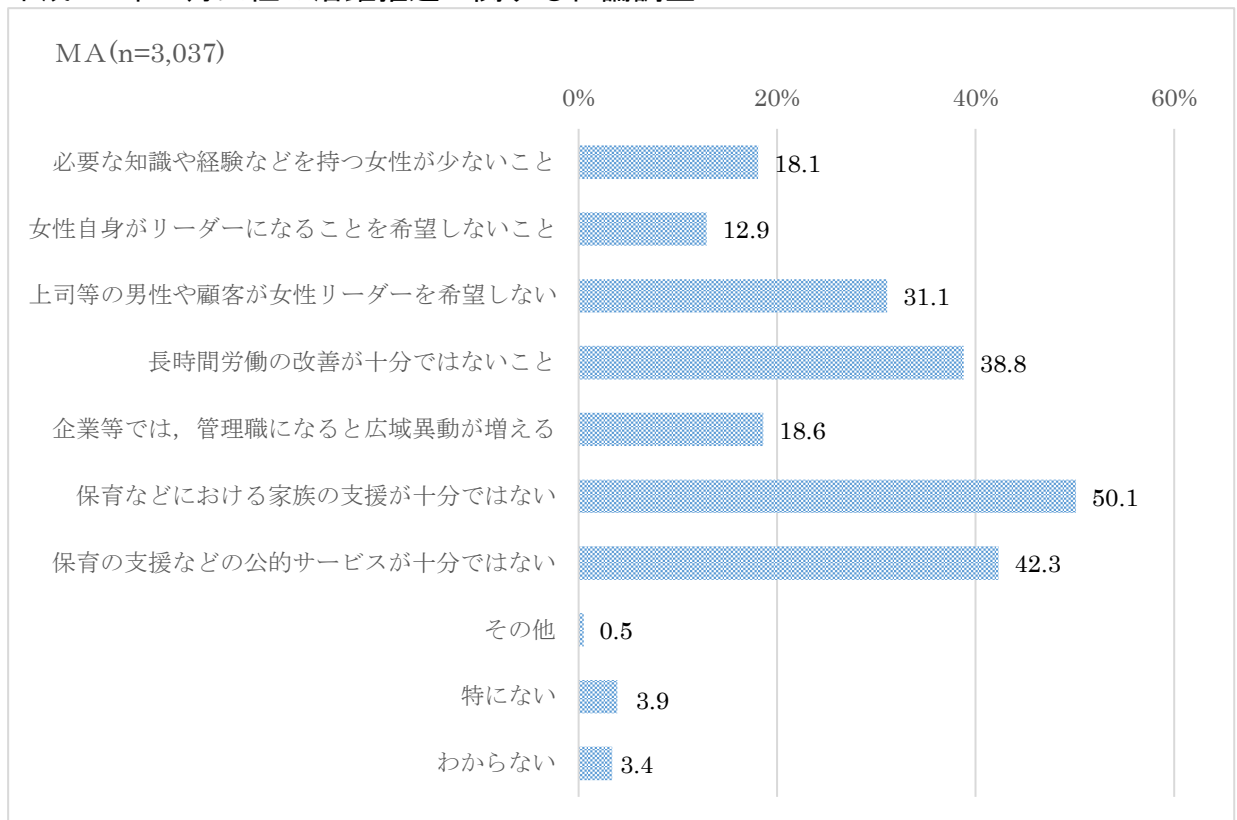
- 女性の能力を認めない男が多すぎる。
- まわりの協力なくしては成り立たない。
- 女性は家庭や生活を優先する人が多いためその印象が強い。
- 出産や育児などによる休業期間を取ることで。
- その他

◆ 各分野で女性のリーダーを増やすときに、世間一般で障害となるものについては、「男性がリーダーとなるのが社会通念、慣行となっていること」「保育・介護・家事などにおける夫や家族などの支援が十分ではないこと」が5割を超えた。

各分野で女性のリーダーを増やすときに、世間一般で障害となるものについては、「男性がリーダーとなるのが社会通念、慣行となっていること」(55.0%)、「保育・介護・家事などにおける夫や家族などの支援が十分ではないこと」(54.0%)、ほぼ同割合で高く、次いで「保育・介護の支援などの公的サービスが十分ではないこと」(48.1%)、「長時間労働の改善など労働環境が十分ではないこと」(40.8%)であった。

※参考

《平成 26 年 8 月女性の活躍推進に関する世論調査》



【各属性別】

		必要な知識や経験などを 持つ女性が少ないこと	女性自身リーダーになる ことを希望しないこと	男性がリーダーとなるのが 社会通念、慣行となっている こと	長時間労働の改善など労働 環境が十分ではないこと	保育・介護・家事などの支 援が十分ではないこと	保育・介護の支援などの公 的サービスが十分ではない公 事	特 に な い	わ か ら な い	そ の 他	無 回 答
性別	男(n=190)	28.9%	25.8%	50.0%	36.8%	45.3%	45.3%	3.7%	3.2%	1.1%	1.1%
	女(n=314)	30.3%	25.5%	58.6%	43.6%	59.2%	49.7%	1.6%	3.2%	1.0%	1.3%
年齢別	20～24歳(n=21)	38.1%	23.8%	71.4%	47.6%	52.4%	61.9%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	25～29歳(n=37)	24.3%	24.3%	67.6%	48.6%	54.1%	54.1%	0.0%	2.7%	0.0%	0.0%
	30～34歳(n=32)	28.1%	21.9%	50.0%	46.9%	56.3%	46.9%	0.0%	3.1%	6.3%	0.0%
	35～39歳(n=46)	15.2%	17.4%	50.0%	41.3%	41.3%	41.3%	8.7%	0.0%	2.2%	0.0%
	40～44歳(n=50)	32.0%	36.0%	72.0%	44.0%	60.0%	52.0%	2.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	45～49歳(n=43)	34.9%	18.6%	58.1%	39.5%	60.5%	53.5%	2.3%	0.0%	2.3%	2.3%
	50～54歳(n=38)	44.7%	31.6%	50.0%	36.8%	39.5%	42.1%	2.6%	2.6%	0.0%	0.0%
	55～59歳(n=55)	25.5%	25.5%	49.1%	32.7%	47.3%	45.5%	3.6%	3.6%	1.8%	1.8%
	60～64歳(n=65)	29.2%	16.9%	56.9%	33.8%	55.4%	46.2%	3.1%	7.7%	0.0%	3.1%
	65～69歳(n=62)	32.3%	35.5%	51.6%	40.3%	67.7%	45.2%	0.0%	4.8%	0.0%	3.2%
70歳以上(n=58)	29.3%	25.9%	41.4%	46.6%	53.4%	50.0%	1.7%	5.2%	0.0%	0.0%	

男女別では、「保育・介護・家事などにおける夫や家族などの支援が十分ではないこと」が女性 59.2%で、男性 45.3%に比べ 13.9%高かった。

年齢別では、「男性がリーダーとなるのが社会通念、慣行となっていること」がどの年代でも高かった。